

小浜旭座で開催

モキカレた。
ほしい」と言う声
「未だ残して
良か」にこう声が
聞かれた。中には、
「知らなかった
も、と広めたい。そし
て、講談師の数を増や
ほしい」と言つた。

客は口を揃えて、
「演終了後、観
能の雲浜太鼓と日本舞
ホは終始拍手が鳴り響いていた。
若狭と鰐街道」をテーマとした日本舞
踊や講談が演じられた。特に、地域芸
能の雲浜太鼓と日本舞踊、長唄のコラボ
がコラボレーティングされた。二つの異なる文化が
融合する形で、日本文化遺産としての価値が
アピールされた。

アピールがコラボレーションによって実現され
た。二つの異なる文化が、一つの舞台で
融合する形で、日本文化遺産としての価値が
アピールされた。

十月十四日、福井県小浜市
にある旭座で「日本遺産」としての
アピールがコラボレーションによって実現され
た。

異色の
文化芸能がコラボ



福井文化新聞 第1号

校良香 清水若狭

その他にも、若狭の春
夏秋冬にちなんだ、長
唄や小浜港の波や若狭
街道の雪を表現した日
本舞踊があつた。

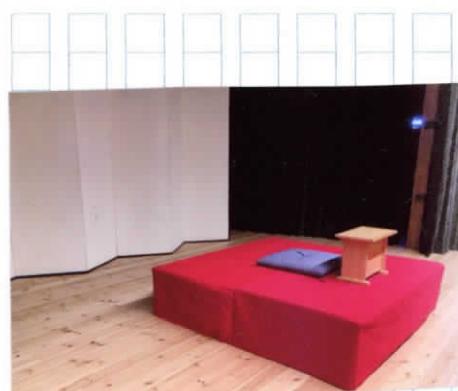
また、唄歌や日本舞
踊の方々も若者に知
られることもあるそう
だ。

今回、初めて生で長
唄を聞いたり、講談を
見て、日本の伝統文化
の澤を感じた。

編集後期

講談とは

旭座、小南陵さんが
鰐街道をテーマに世界
初演した。講談とは、
日本の伝統芸能の一つ
であり、張り扇で舞台
観衆に対して読み上げ
るものである。



どの日本の文化芸能
も人手・人材不足で悩
んでいるのが現状であ
る。そのため、若者に
注目して、様々な取り
組みをしていくようだ。

講談師は全国でも約
八十人である。一方、
落語は、約八〇〇人で
ある。その状況に、旭
堂・小南陵さんは、「
私は、二の新聞を信じ
てたくさんの人が少しご
とに気になつてくれると
嬉しい」と嬉しく思つた。

私は、地元にある伝
統芸能について、改めて
よく調べてみようと